

# 令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」受賞作品(作文)

## 優秀賞(国土交通事務次官賞)【中学生の部】

『今、僕にできること』

関西学院中学部  
一年 山中 湊翔

毎年、日本のどこかで土砂災害が起きています。土砂災害に対する対策がされていて助かったという命はたくさんあります。その反面、対策がいき届いていない場所では、命を落とす人もたくさんいます。

日本は、世界でも有数の土砂災害の多い国です。日本列島の地形や地質、気象などの自然条件に大きな原因があります。日本は平地が狭く、土砂災害の起こりやすい場所にもたくさんの人が住んでいるため、大きな被害が出る原因となっています。僕はこの日本に住んでいる以上、土砂災害について考える必要があると思い、僕の住んでいる兵庫県西宮市を参考にして考えたいと思います。

西宮市では、平成7年阪神淡路大震災の時に、仁川百合野町地区で大規模な地すべりが発生しました。たくさんの土砂が一瞬にして流れ込み、13戸の家屋を飲み込み、34名もの命が失われました。小学生の時に授業で学習しましたが、西宮市は明治時代から砂防事業が盛んに行われていました。では、なぜ防ぐことができなかったのか、今の西宮市はどれくらい対策が取れているのかを調べてみました。

土砂災害は主に地すべり、土石流、がけ崩れの3種類があり、合計で264箇所の土砂災害警戒区域があることが分かりました。そのうち、土砂災害特別警戒区域は133箇所で、明治32年頃から130年ほどかけて対策をしてきたにもかかわらず、まだ半分くらいしか対策ができていないことが分かりました。

土砂災害は、いつ、どこで発生するかは分かりません。全ての場所の対策が終わるまでに、明日にも僕の住んでいる場所で土砂災害が発生するかも知れません。だから、僕は、「今、僕にできること」を考えたいと思います。

まず「今、僕にできること」を4つ考えました。

1つ目は、自分の住んでいる地域の地形などをしっかりはあくしておくことです。土砂災害が起こる原因の1つとして大雨があります。大雨が降った場合は土砂災害、川の氾濫、洪水などの危険があるから、一番近くて川からも離れていて、高台にある小学校に行こう。みたいにあらかじめ地域のことをしっかり理解しておく、冷静に的確な判断ができるようになります。

2つ目は、地域の人達、近所の人達、家族との連絡手段をつくっておくことです。大雨や土砂災害のいきなりで電気が使えなくなったらスマホも充電ができなくなり制限がかかってしまったりすると、危ないからです。僕の場合はまだスマホを持っていないので集合場所を決めています。なぜ連絡をできた方がいいのかというと、一回土砂災害に巻きこまれてどうにか息ができても生死の分かれめ、タイムリミットの72時を過ぎると亡くなってしまう可能性が高くなり命が助かるには地域の方に助けをもう他ないからです。

3つ目は土砂災害に対する心構えです。僕はこれが一番大切なことだと思っています。土石流や地すべり、がけ崩れなど気づいても一瞬の出来事なのでよけることなどほぼ不可能です。ならどうすればよいのか。答えは1つあらかじめ逃げるしかないのです。しかし死人は中々減りません。なぜなら逃げないからです。自分は絶対に大丈夫だという自信、さらにその自信を疑わない心、僕はこの油断が一番の大きな死因だと思っています。

4つ目は、自分が自宅にいる時だけに災害が起こるわけではないということです。学校にいる時、旅行に行っている時などいつでもその場所がどんな場所かに注意し、もし逃げるとすれば、どうするかを少し考えておくことだけでも命を守ることができると思っています。

これまで話してきて、調べてきて僕は自分たちだけでお金もかけず、自分のお金にかえることのできない「命」を守るすべがこんなにもたくさん知ることができてよかったです。

僕はまず自分が逃げる行動を起こすことで身近な人達にも声をかけて、一人でも多くの人々が避難行動を起こし、命を守れるように、勇気を持って行動したいと思います。

# 令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」受賞作品(作文)

## 兵庫県治水・防災協会奨励賞【中学生の部】

### 『土砂災害への備え』

神戸大学附属中等教育学校  
一年 和田 稜平

「土砂災害」という言葉をニュースなどでよく耳にするが、僕にしては他人事のような、それほどピンとこないというのが本音だ。土砂災害はニュースのイメージなのかもしれない。

まず土砂災害と聞いて真っ先に思い出したのは広島を中心に襲った平成26年8月豪雨だ。

当時僕は6歳だったが、テレビから流れていた映像を今でも覚えている。山肌が崩れ、民家やアパートに流れ込む土砂などあまりにも無残な姿を幼かった僕も記憶に残っているほど衝撃的だった。

この災害だけで75人の尊い命が奪われ、本当に自然の力はおそろしいと思う。

ではなぜ数日前から大雨が降っていたのに、住民の方たちは避難しなかったのか。それは「自分は大丈夫」という油断があったからではないだろうか。

人々は災害の恐ろしさにはメディアなどから最新の情報を得ているのにも関わらず、なぜか人々は、ここは大丈夫とってしまう。そう思いたいのか信じているのか分からないが、僕もその立場になると同じ気持ちになると思う。

何故そうしてしまうのか考えてみたら、やはり避難するのが億劫というのが一番の原因ではないだろうか。

家だと遊べるし、空調管理もできるので、環境も整っている。だから避難所に行く必要がないと心で思うのではないだろうか。子供がいる家庭は迷惑だと考えるし高齢者がいる家庭は足が悪いので簡単には動けないなど、様々な理由がある。

自分の命より周りの目を気にする日本人特有の考えがもとにある気がする。

ではどのようにしたら、人々が避難するかを考えてみた。まずは地域の方々、僕の場合はマンションに住んでいるので普段からコミュニケーションをとるようにする。災害があっけいなり声を掛け合うのは抵抗がある。だからこそ普段から挨拶をし、声がかげやすい関係性を作るのが大事だと思う。マンションには少ないが高齢者の方が住んでいるので、そういう方にこそ率先して声がかげできる様になりたい。

次にこの作文をかくにあたり、気象庁や国土交通省のホームページを見て、今まで知らなかった事柄をたくさん学ぶことができた。

まず僕が住む地域のハザードマップを確認してみた。1年くらい前に市から配付されたのを思い出し、クローゼットから引っ張り出して見てみたが、僕の住んでいる地域は平地なので問題ないことがわかり安心した。

詳しく調べるために自治体のホームページを調べてみると土砂災害以外にも、洪水、津波、高潮などの情報がCGハザードマップと辺のことも把握しないとだめだと気付かされた。僕の家では災害にあった場合の決まり事がある。家族が別々に過ごしているときに災害に見舞われた場合、最寄りの避難所に行きそこから絶対に離れない。携帯など通じなくても、避難所にいけば連らくがつくからだ。

これだけの事だが、こういう取り決めをしているだけで心に余裕ができる。当り前のことだが、決めておくとおかないのでは全く違う。これからの季節、台風という厄介なものに度々見舞われる。その前に家族や学校で話し合い、気を付けて行動することにより土砂災害から免れる可能性を高めていきたい。

要するに、準備というものが大切だ。